

飼料イネロールベールのネズミ害は「広々配置」で軽減できる

《1. はじめに》

ロールベールとして収穫される飼料イネは、巻き付けられた薄いラップフィルムによって気密性が保たれ、サイレージとして貯蔵されますが、籾を食害するネズミによってラップフィルムが損傷を受けると容易に腐敗してしまいます。飼料イネの生産量が増加し、ロールベールでの貯蔵期間が長くなるにつれてネズミ害が顕在化してきたことから、ネズミ対策の研究に取り組みました。

《2. 研究に取り組んではみたものの》

当初、殺鼠剤・ワナ+忌避剤のセットで簡単に解決できると思いました。ところが、ネズミの飼料イネに対する嗜好性が高いため、周りに置いた殺鼠剤の方を採食させるのは容易ではないことがわかりました。

次にワナですが、ロールベール周りで野ネズミ類はたくさん捕れるのですが、いっこうに被害が収まりません。加害するのは野ネズミ類だけでなく、捕獲が難しいドブネズミやクマネズミなどの家ネズミ類まで多岐にわたっていました。

残るは忌避剤です。しかし、天敵のニオイでさえ、5日程度で慣れてしまうネズミにとって、一種類の忌避剤で警戒を与え続けることは困難であることがわかりました。ならばと唐辛子の辛み成分である「カプサイシン」のラップフィルムへの塗布を試しました。しかし、ガリガリと嚙らなくても、数回の嚙りで穴が開いてしまうラップフィルムでは、辛みを感じる間もないために効果がないことがわかりました。まさに万策尽きたと感じました。研究を開始してからすでに3年の月日が経っていました。



写真1／広々配置された飼料イネロールベール

《3. 発想の転換》

悶々と今までの経過を思い出しているときに、ふと、あることに気づきました。通常、ロールベールを保管する場合、

東北飼料イネ研究チーム

河本英憲

KAWAMOTO, Hidenori



積み重ねて密集させます。ネズミが加害するのは、この密集したロールベール群の奥の方に位置するロールベールに集中していました。すなわち、密集したロールベール群の中に入り込めば、ネズミは天敵の脅威にさらされずに安心して食害を加えることができると考えられます。ならば、ロールベールの間隔を空けて広々と配置（以下、広々配置、写真1）すれば、ネズミの隠れ場所がなくなって、食害を与えるのをためらうのではないかと。

すぐに実験を行いました。ロールベールを密集させてロールベール間に陰ができる通常の配置と広々配置とを比較しました。結果は、図1に示した通り、広々配置によって被害を大きく軽減できることを確かめました。ここに、ネズミの生態を巧みに利用することによって、殺鼠剤や忌避剤などの化学物質に頼ることなく、また、特別な機械や施設を必要としない、ネズミ対策が開発されました。

その後、この広々配置技術の詳細を解説した「稲発酵粗飼料貯蔵中のネズミ対策マニュアル」（写真2）の作成に至りました。

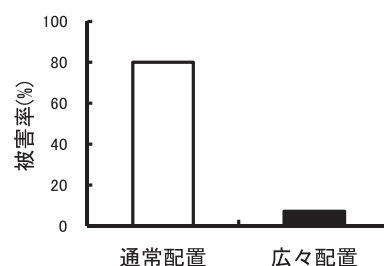


図1／クマネズミに対する広々配置の食害軽減効果



写真2／稲発酵粗飼料貯蔵中のネズミ対策マニュアル（三つ折りパンフレットA4版）